

平成 28 年度 昭和小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、心身ともに健康で想像力に富み、豊かな情操と正しい判断力・実践力の
ある心豊かで、たくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標

心豊かで思いやりのある子 健やかでたくましい子 自ら学び自分をのばす子
《児童目標》 やさしい子 元気な子 よく学ぶ子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「明るく、楽しく、活気があふれ、行きたくなる学校（児童）、そして行かせたい学校（保護者・地域）、勤めたい学校（教職員）」
にしたいと考える。

そのために、教職員が使命感に燃え、組織として一致団結して教育活動に取り組みながら、保護者や地域との協働のもと、子
どもが楽しく学び、居がいのある学校づくりを目指していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 「学習指導要領」、「宇都宮市学校教育スタンダード」の趣旨に基づき、21世紀をたくましく生きる力の育成を目指して、
児童一人一人がそれぞれのよさを発揮できる、活力ある学校づくりに努める。
- (2) 本校の教職員としての誇りをもち、サービスを遵守するとともに自己研鑽に努め、真摯な態度と寛容な心をもって昭和小学
の推進に努める。
- (3) 基本的生活習慣を身につけて、健康で安全な生活ができる児童の育成に努める。
- (4) 生命尊重の心や思いやりの心など豊かな心を育成するための教育活動の推進に努める。
- (5) 基礎・基本を重視し、確かな学力を身に付けさせるとともに、主体的に解決できる児童の育成に努める。
- (6) ○夢工房（昭和小学魅力ある学校づくり地域協議会）を核として、星が丘学校園における小中学校と関係団体との連携を強化
し、地域の教育力を生かした学校経営に努める。

【星が丘地域学校園教育ビジョン】 未来を拓く豊かな社会性の育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・自分、社会、環境との豊かなかかわりを通して、自己の成長や変容を目指し、主体的に取り組む意欲や態度の育成
- 《合言葉》 “からだ元気 ころ元気 元気に学ぶ 昭和の子”

【学 習 指 導】

- ・「人とのかかわりを通して、実践力を育む授業の創造」～よりよい生活をめざす児童の育成～

○・未来を拓く豊かな社会性の育成

【児 童 生 徒 指 導】

自分を大切に、他者もかけがえない存在として大切にする態度・実践力の育成

○・心のこもったあいさつや言葉づかいの育成

- ・自分・友人・家族・地域を大切に思える心の育成

- ・進んで自分の責任を果たそうとする力や態度の育成

【健康（保険安全・食育）・体力】

自他の命や健康の大切さを知り、健康・体力・安全の向上に心がける態度・実践力の育成

○・健康・安全に心がける力や態度の育成

○・進んで体力や運動能力養う態度の育成

- ・仲良く・規律ある生活のできる自立の心の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①児童が意欲的に活動できる学校行事の計画・実施に努めると共に、児童会・委員会活動など児童の主体的活動や縦割り班活動を積極的に展開する。 ②授業の様々な活動を通して、教職員が児童のよさを認めるとともに児童相互に認め合う場を設ける。	B	【達成状況】 A1：昨年度と比較すると、児童の肯定的回答が 95.7%と約 4 ポイント上回っており、目標は達成できた。 【次年度の方針】 ① 継続して指導する。 ② 継続して指導する。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なことを、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①教師個々の能力が発揮できるよう特性を生かした組織の編成に努め、職員が協力して児童の指導に当たる。 ②児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、努力したところは認め、指導すべきところはきちんと指導する。	B	【達成状況】 A2：児童の肯定的回答が 98.4%と高い数値を示している。教師個々の特性を生かし、職員が協力して児童の指導に当たった。 【次年度の方針】 ① 継続して指導する。 ② 継続して指導する。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①授業での話し方・聞き方の指導の徹底に努めるとともに、「昭和小児童 10 の約束」や年間重点目標の指導の徹底を目指す。 ②休み時間の遊び方や廊下の歩行、登下校時の歩行について、自分で考えて安全に行動できるよう日常的な安全指導に努める。特に登下校時は、保護者や地域の方と連携し、安全指導を充実させる。 ③児童会活動や縦割り班活動など異学年交流の場で、きまりやマナーをみんなで考える機会を設ける。	A	【達成状況】 A3：児童 88.2%，教職員 100%の肯定的回答だった。しかしながら児童の肯定的回答が微増にとどまっていること、教職員と児童の肯定的回答の差が課題である。児童の意識の向上を目指す必要がある。 【次年度の方針】 「昭和小児童の 10 の約束」を見直す必要が出てきた。廊下の歩行の乱れは見られるため、教職員による同一歩調での指導を徹底したい。 児童会活動で、きまりの必要性を訴える活動が希薄だった。児童会で話し合った課題に対しての方策を、具体的な形にしていきたい。
	A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①本時のめあてを毎時間板書し、指導目標を明確にし、わかる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努める。 ②児童が意欲的に取り組めるように習熟度別学習・少人数指導・チームティーチング等の授業形態や分け方を工夫し、学力向上を図る。	B	【達成状況】 A4：児童の肯定的回答 96.1%と目標値を達成している。 ① 全校共通の板書表示を作ったことによりめあてが明確になり振り返りの時間が確保できるようになった。 ② いろいろな学習形態により、学力向上につながっている。 【次年度の方針】 ① ② 継続して指導する。

A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「いじめが許されない行為であることを指導している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 80%以上	①「いじめゼロ集会」や「いじめゼロ強調月間」などの機会に、いじめられる人の気持ち、いじめた人の気持ち、周りの人の気持ちなどを考えさせ、いじめ根絶への意識を高める。 ②年3回「いじめアンケート」を実施して実態を把握し、問題の早期発見と解決に努める。 ③いじめに対する対策を学校だより・学年だよりや学校ホームページなどを通して積極的に公表する。	【達成状況】 A5：それぞれの肯定的回答は、児童 97.4、保護者 78.6、教職員 100、地域 94.1%だった。保護者の肯定的回答が昨年度に引き続き低いため、保護者へのいじめに対する問題意識の高さが見て取れる。学校としての取組に理解が得られるよう公表の手段を工夫する必要がある。 【次年度の方針】 取組を継続しつつ、いじめゼロ集会に保護者の見学を募ったり、授業参観の道徳においていじめの内容を扱う機会を設けたりする。懇談会において、担任からいじめ対策を保護者に伝えるようにする。
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「私の学校生活や、様々な活動は充実している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	①前年度の学校評価を踏まえて教育課程を編成するとともに、学校行事・授業参観の実施後、職員間での話し合いや保護者等によるアンケートにより、工夫改善を図る。	【達成状況】 A6：児童の肯定的回答が95.0%とわずかではあるが昨年度より高い数値を示している。学校行事・授業参観等の実施後、職員間での話し合いや保護者等によるアンケートの結果を踏まえ、工夫改善を図った。 【次年度の方針】 ① 学校評価等の結果を踏まえて、さらに工夫改善を図る。
A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	①授業参観および懇談会（年2回）・学校自由参観・音楽集会・親子ふれあい活動（各学年）を実施するとともに、積極的な参加や参観を呼びかける。 ②学校だよりを月1回程度発行し、保護者・地域住民に配付・回覧する。また、ホームページによる情報の公開に努めるなど、必要な情報は適宜積極的に発信する。	【達成状況】 A7：①保護者、地域住民の肯定的回答がいずれも昨年の数値を上回り、高い数値を示している。音楽集会や親子ふれあい活動などの参加率も高く、保護者の関心の高さがうかがわれる。 【次年度の方針】 ① 継続して指導する。 ② ホームページの更新をこまめに実施する。
A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	①昭和夢工房（地域協議会）を中心とし、各種団体との連携を図り、諸活動を充実させ実施していく。（ゲストティーチャー・安全ボランティア・盆踊り・昭和まつり・どんど焼き等） ②企業や公的機関の実施する授業協力を活用するとともに、地元の企業商店等の協力等によるインターンシップ活動等を実施する。	【達成状況】 A8：保護者の肯定的回答が96.3%、地域住民は95.5%と高い数値を示している。 盆踊り・昭和まつり・どんど焼き等各種団体主催の行事やインターンシップの充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ① 地域コーディネーターとの連絡調整をさらに密にし、ゲストティーチャーの活用を図っていくとともに、各行事の充実に努める。 ② 継続して指導する。

教育活動の状況		A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	①日常の清掃活動のほか、クリーン活動週間を位置付け、充実した清掃活動に繋げる。また、定期的な環境点検を実施し、迅速に補修を行い、回復補修に努める。 ②校内掲示計画・花壇栽培園計画の見直しや、児童による各種委員会活動を通して、潤いのある学習環境づくりに努める。	B	【達成状況】 A9：保護者の肯定的回答が 93.6%，地域住民が 100%と高い数値を示している。 ①全職員による定期的な環境点検を実施し、学習がしやすい環境づくりに努めた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。 ② 継続して実施する
		B1 児童理解に努め、様々な問題を抱える配慮児童への適切な指導がなされている。 【数値指標】 学校アンケート「先生は、困ったときに相談にのってくれ、解決の手助けをしてくれる。」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①教育相談週間（年 2 回）や日常の相談活動、Q・U 検査等を通して児童理解に努める。 ②特別支援教育コーディネーターや担任との連携のもとかがやきルームの効果的活用を図る。 ③教職員全員で配慮児童の情報を共有し、連携を図る。	B	【達成状況】 B1：児童の肯定的回答は 96.1%。教員に対する信頼感は微増。かがやきルームとの連携力の向上がうかがえる。 【次年度の方針】 配慮児童の情報共有は大切な場である。職員研修に位置付けるとともに、有事の際には即情報共有をするシステムを継続していく。
	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	①教師が進んで日常的なあいさつを<u>実践し指導するとともに、児童会による縦割り班でのあいさつ運動を年間を通して実施する。</u> ②家庭や自治会に協力を依頼し、<u>家庭・地域ぐるみであいさつ運動を展開していく。</u> ③児童会を中心としたあいさつ運動を継続し、<u>中学校とも連携しあいさつ運動を励行していく。</u>	A	【達成状況】 A10：児童 95.1%，保護者 75.4%，地域 82.6%で、保護者の低さと、児童の意識の高さとのギャップが感じられる結果となった。 【次年度の方針】 縦割り班でのあいさつが意識付けの段階で止まっている。教職員の同一步調での日常指導が必要。 登下校中の挨拶についても指導を重ねていく。 日常のあいさつに対しても評価する機会を設け、意識付けを図る。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①相手を「～さん」と呼んだり「～です。～ます。」などの丁寧な言葉遣いをしたりすることを奨励し、<u>言語環境を整えるとともに、保護者にも呼びかけ、日常化を図る。</u> ②休み時間や学校外の言葉遣いについても指導するとともに、<u>地域の行事等の機会を生かし、地域や家庭との連携を図る。</u>	A	【達成状況】 A11：児童の肯定的回答は 85.6%で、微増した。学校外における言葉づかいも指導する必要がある。 【次年度の方針】 授業中の言葉づかいに関しては学習指導と連携してふさわしい言葉づかいを繰り返し指導していく。

健康・体力	B2 人権の大切さを知り、誰とでも仲良く生活している。 【数値指標】 学校アンケート「友だちと仲良く遊び、わけへだてなく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学級・学年でのグループ活動や縦割り班活動を通して、仲間意識を育て支え合う集団づくりを推進する。 ②地域学校園の重点課題である、思いやり・情報モラルを育む<u>道徳の授業</u>を通し、<u>人権を尊重する態度を身につけさせる。</u>	【達成状況】 B2：児童の肯定的回答率は96.7%で、微増した。縦割り班活動が有効に機能していると思われる。 【次年度の方針】 いじめゼロの取組や情報モラルともかかわらせながら更なる肯定感の上昇を目指す。
	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童・生徒は、休み時間や放課などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①<u>のびのびタイム（毎週1回）休み時間・昼休み等において校庭での遊びを奨励し、用務の無い限りは教師も率先して児童と遊ぶ。</u> ②学年の発達段階に応じて自主的に取り組める補強運動（サーキットトレーニング等）の例示を拡充し、<u>教科体育の充実を図るとともに、体力づくりのための行事を行う。</u> (縄跳び検定・水泳検定・鉄棒検定・ミニマム・山野横断大会他)	【達成状況】 A12：肯定的回答の達成状況は93%と目標が達成されてる。 【次年度の方針】 ① 運動する機会を増やすため、昼休みの体育館使用を奨励する。 ② 継続して実施する。
	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童生徒は好き嫌いなく給食を食べている：児童」「自分の子どもは好き嫌いなく食事をしている：保護者」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	①<u>給食の時間に、学校栄養士が各学級に計画的に入り、発達段階に応じた栄養指導を行うとともに、食育への啓発を図るために食育だよりを発行する。</u> ②学級活動や家庭科、生活科、保健の授業において、学級担任は学校栄養士や養護教諭とともに食に関する指導を積極的に実施する。	【達成状況】 A13：肯定的回答の達成状況は82%と目標が達成されてる。地域住民と保護者の肯定的回答が大幅に高まっている。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。 ② 「学級活動や家庭科、生活科の授業において、学級担任は学校栄養士とともに食に関する指導を積極的に実施する。」
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	①児童が意欲的に取り組めるような場を設定し、発問等を工夫する。 ②児童が互いに考えを出し合い、高め合えるグループ作りを工夫し、進んで話し合う習慣化を図る。	【達成状況】 A14：児童の肯定的回答 91.8%と目標値を達成している。児童も保護者も昨年度より肯定的回答が上がっている。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。 ② 継続して実施し、さらにグループ学習についてのマニュアル作りを検討する。

本校の特色・課題等	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学年に応じた学習のきまりを作成し、 <u>学び方を身につけさせるとともにわかる授業の展開に努める。</u>	B	【達成状況】 A15：児童の肯定的回答 85.6%と目標値を達成している。児童も保護者も昨年度より肯定的回答が上がっている。 学年に応じた学習のきまりについて話し合った上で来年度作成する。聞き方のポイントを示した掲示物を作成し、各学級に掲示した。 【次年度の方針】 ① 学年に応じた学習のきまりを作成し、児童への意識化を図る。 ② 継続して指導する。
		② 学年の発達段階に応じて、聞き方のポイントを示した掲示物や声の物差しを作成し、児童の意識化を図る。		
	B3 児童は、読書の楽しさを知り、本をたくさん読んでいる。 【数値指標】 学校アンケート「私は、本を読むことが好きである」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①おはようタイムに週2回読書の時間を設け、月3回のボランティアによる読み聞かせを実施するほか、教師の読み聞かせの機会も積極的に実践していく。 ②図書館の積極的活用とともに、 <u>図書館便りや学校園ほんよみネット等を通して、家庭にも協力を呼びかけ、読書時間の確保を図る。</u>	B	【達成状況】 B3：肯定的回答の達成状況は86%と目標が達成されてる。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。 ② 司書教諭により、地域学校園の必読図書のおすすめを行う。休日の家庭学習に読書を出したり、読書の記録をカードに書いたりするなどして、家庭での読書の時間の確保を図る。
	B4 児童は、八幡山公園における活動・行事に、楽しく参加している 【数値指標】 学校アンケート「私は八幡山公園での授業や行事は楽しく、一生懸命取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①教科指導や学校行事において、自然観察や史跡観察、ウォークラリー、野外給食、山野横断大会等、八幡山公園での活動を工夫して実践する。	B	【達成状況】 B4：肯定的回答の達成状況は94%と目標が達成されてる。 行事や各学年での活動で効果的に実施されている。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。
	B5 主体的に考え、互いに学び合う力が育っている。 【数値指標】 学校アンケート「私は自分の考えを伝え、友だちの考えを聞きながら、学習することが楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① <u>他とかかわり合いながら主体的に学べる場を設定することにより、話す力・聞く力・コミュニケーション力や社会性を育てる。</u>	B	【達成状況】 B5：児童の肯定的回答 89.5%と目標値を達成している。 ①自分の考えをもちながら学び合いの授業を展開し、充実した縦割り班活動を実施したことにより、コミュニケーション力や社会性が育ってきている。 【次年度の方針】 ① 継続して実施する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では「明るく、楽しく、行きたくなる学校（児童）、そして行かせたい学校（保護者・地域）、勤めたい学校（教職員）」を目指し、昭和小教育の推進に努めてきた。また、保護者や地域と協働のもと、子どもが楽しく学び、居がいのある学校づくりを目指してきた。児童・保護者・地域住民の肯定的回答の割合は全般に高く、組織的に協働して教育活動に取り組んできた成果が表れたと言えるであろう。

児童の評価では「先生方は大切なことを、熱心に指導してくれる」98.4%、「いじめが許されない行為であることを指導している」97.4%、「私は、友達と仲良く遊び、わけへだてなく接している。」96.7%、が、特に高い値であった。

保護者の評価においては、「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」97.7%、「児童は、八幡山で授業や行事に、楽しく、一生懸命取り組んでいる」97.3%、「教育課程は、適切に実施されている」98.0%が、特に高い値であった。一方、「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」75.4%、「児童は、大人に対して適切な言葉遣いをしている」69.0%、「自分の子どもは、本を読むことが好きである」70.4%は、肯定的回答がやや低い傾向にあった。「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」は、昨年度は、70.4%だったが、今年度は、82.1%と数値指標を達成した。

地域住民の評価では、「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」100%、「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している。」100%、「学校は、積極的に情報を発信・提供している。」100%、「学校は、学習しやすい環境である」100%、「児童は積極的に運動している」100%、「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。」100%が、特に高い値であった。

今年度のマネジメントシステム全体アンケートの結果を見ると、本校の肯定的割合は、市全体と比較しても高い傾向あり、本校は良好な状況にあると言えるであろう。

その中で、学習面では、学年の発達段階に応じて学習のきまりや聞き方の基本を身に付けるようにさらに指導をしていきたい。また、運動面では、運動する機会を増やして、進んで運動する習慣が身に付くようにしたい。

「時と場に応じた言葉遣い」や「あいさつ」については、児童に意識付けを図り、夢工房（昭和小学校地域協議会）を中心に、学校・家庭・地域が一体となって、手立てを構想し、実践していきたい。さらに、星が丘学校園における小中学校と関係団体との連携を強化し、地域の教育力を生かした学校経営に努めたい。

6 学校関係者評価

学校関係者評価部会において協議された点は、以下の通りである。

- ・本校の肯定的割合は、市全体と比較しても高い。本校の教育は良好であるようだ。
- ・子どもが明るく元気な声であいさつしてくれる。地域も協力していきたい。
- ・音楽集会に参加したが、児童が素晴らしい演奏などをしてくれて感動した。これからも続けていただきたい。
- ・地域目で見ても、学年をこえて仲がよいという印象を受ける。
- ・夢工房を中心として、今年も季節の行事（七夕かざり・盆踊り・昭和まつり・どんど焼き等）が実施された。子ども達にとって、貴重な体験ができています。
- ・学校・家庭・地域が協力して進んでいるので、継続していきたい。
- ・学校の様子が地域住民にも分かるように、さらに情報を提供してほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校の教育活動は、全般的には良好である。特に「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」は、家庭・地域から高評価であった。学校・家庭・地域が協力した活動も多いが、地域住民や保護者と連携しながら、一定の成果を上げることができた。今後も継続していきたい。

「あいさつ」や「時と場に応じた言葉遣い」については課題がある。「あいさつ」や「時と場に応じた言葉遣い」を児童に身に付けさせていくために、学校での指導を充実させるとともに、家庭や地域とも協力し合い、一体となって具体的な手立てを図っていく必要がある。地域住民や保護者、教職員など、児童を取り巻く大人の継続的なかわりが必要になってくる。児童と地域住民等が交流するときを「あいさつ」や「時と場に応じた言葉遣い」の実践の場として生かすように意識づけを図っていききたい。今年度は、地域学校園として「あいさつ運動」を実施し、一定の成果を得た。次年度も協力して取り組みたい。「時と場に応じた言葉遣い」については地域学校園としても共通の課題であることから、連携の強化を図りながら推進していきたい。

学校関係者や保護者からいただいた多岐にわたる貴重なご意見は、次年度の学校経営の中に生かしていきたい。学校・家庭・地域が一体となった教育活動・学校運営の充実を図り、学校での様子や取組を随時家庭や地域に発信しながら、よりよい教育を目指し協力体制を構築していきたいと考えている。